特集 社会ネットワーク分析の展開

社会ネットワーク分析
―概説―

小　林　照　義

目　　次

1．はじめに
2．ネットワーク科学とは何か
3．ネットワークを通じたリスクの伝播
4．おわりに

本稿は、ネットワーク科学の枠組みや、社会ネットワーク分析の基礎を概観した総論である。ネットワーク科学は2000年ごろから急速に発展してきた学問領域であり、データ解析手法や数理モデルは専門分野の壁を越えて広く利用されている。本稿では特に社会経済ネットワークを念頭に置き、分析手法やこれまでの研究から得られた知見を紹介する。

1．はじめに

社会経済システムは、個人、企業、金融機関、および政府などの多様な主体で構成されており、各主体の動きを個別に観察しても本質は見えてこない。各主体は1つのシステムの構成員である以上、その行動原理や存在意義は、他者との関係性に大きく依存しているためである。

例えば、ある企業の将来性を評価しようとするとき、売上や営業利益等の集計指標はもちろん重要な要素ではある。しかし、「どんな相手と取引をしているか」、「競合企業はどこか」、「どの企業とパートナーシップ関係にあるか」といった経済エコシステムにおける位置づけがとりわけ本質的な情報になる。売上や利益額といった集計量を見ると類似した企業は多数存在する可能性があるが、取引相手やパートナーシップはその企業独自の個性である。言いかえれば、社会経済システムを構成する参加者は、他者との関係性によってはじめてその存在が特徴づけられる。誰と付き合っているかを見ればその人となりが分かる、というわけである。

社会経済に張り巡らされたそうした様々な「つながり」は、経済活動を促進し、社会的な交流をもたらすという大きなメリットがあることは言うまでもない。しかしその一方で、つながりは時と

小林　照義（こばやし　てるよし）
神戸大学大学院経済学研究科教授。2004年、名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士（経済学）。中京大学経済学部講師、准教授、神戸大学大学院経済学研究科准教授等を経て、2021年より同教授。2020年村尾育英会学術賞、2021年KDDI Foundation Award（貢献賞）、2023年ドコモ・モバイル・サイエンス賞（社会科学部門）受賞。主な著書に、『金融政策（第2版）』（中央経済社、2020年）などがある。

©日本証券アナリスト協会　2026